

「第3回うるおい部会」整理メモ ~環境を切り口として市民生活をうるおいあるものに~

現状と課題について

政策の基本方向について

市民と行政との役割分担

べき10年後に目指す姿について

環境全般

- ・ 都市全体のまちづくりをどう進めるのかを議論する「鳥の目」と、住んでいる人たちの暮らしや眼差しから議論する「虫の目」で検討を
- ・ プラスとマイナスを逆転させる価値観のアピールを
- ・ 京都では、1～2人暮らしが増え、離婚率も高く、これから高齢化も進む
- ・ 本当に環境にやさしいとはどういうことかの指針が必要
- ・ 環境問題は、普通の生活では実感できない点が問題
- ・ 自らがいかに実践するかを考えるべき

環境保全

- ・ 環境に関する単純な知識ではなく、考え方や判断の仕方を教えるべき
- ・ 生態学的にも貴重な深泥池が脚光を浴びていない

低炭素社会

- ・ 自転車は環境によいが、駐輪場がない

循環型社会

- ・ 京都は事業系ごみが多いが、家庭ごみは他都市と比較するとかなり少ない
- ・ 事業系ごみを減らす点に知恵を絞る必要がある
- ・ 衛生面、法律面、ごみの面などを切り離さずに解決を

- ・ 議論が沸騰するような課題の提言を
- ・ 環境をうまく活用し、地域力アップなどに結び付けられないか
- ・ 市民にどう取り組んでもらうかを考えるべき
- ・ 市民一人一人のライフスタイルの変革にきめ細かく取り組める施策を
- ・ 「再利用」などをうまく京都ブランドとして付加価値を

- ・ 京都スタイルの環境教育を。目利きを育てていくことが大切
- ・ 子どもが能動的に自分で考えて実践できる習慣付けが大切
- ・ 環境に詳しい人材育成を
- ・ 子どもに自然の美しさを実感させることが大切
- ・ 近郊農業の復興が環境政策や子どもの教育にもつながる

- ・ 國際観光都市と環境モデル都市の融合を
- ・ 小さい道路は舗装を剥がし、土の道としてはどうか
- ・ 歩くまちの推進を

- ・ 分別が重要。家庭単位ではなく、地域で取り組む仕組みを
- ・ 食べ物を粗末にしない子どもが増えるとエコにもつながる
- ・ ごみ減量の「見える化」や減量した人への「特典」が考えられないか

- ・ 行政、組織、個人の役割を明確に

市民の役割

- ・ 個人が自らのライフスタイルを変えること
- ・ 個人だけでなく組織として環境問題に取り組むこと
- ・ 自らの行動を中心に環境問題に取り組む流れを作ること
- ・ 小さくてもできることから取り組むこと

行政の役割

- ・ どんな取組も市民のコンセンサスづくりと並行すべき
- ・ 市民が取り組むべき具体的な方法を示すこと
- ・ 社会のシステムづくり

- ・ 家庭からのCO₂排出量は一人当たりの数値で全国と比較を
- ・ 日本だけでなく世界とも比較を